

# ハザードマップを確認しよう

## Checking Volcanic Hazard Maps



火山ハザードマップは、噴火が発生したときの避難行動の目安として活用できる。火山ごとに、噴火に際して噴石や降灰があると予想される範囲や、土石流などの二次災害が起こりやすい範囲などが地図に分かりやすく示されている。富士山は、想定される火口範囲が広く、噴火の影響が広い範囲に及ぶ可能性がある。

### 富士山ハザードマップと噴火警戒レベルに対応した防災対応

富士山では、噴火した時に影響が及ぶ可能性の高い範囲を以下のように推定しています  
(全ての範囲が同時に危険になるわけではありません)

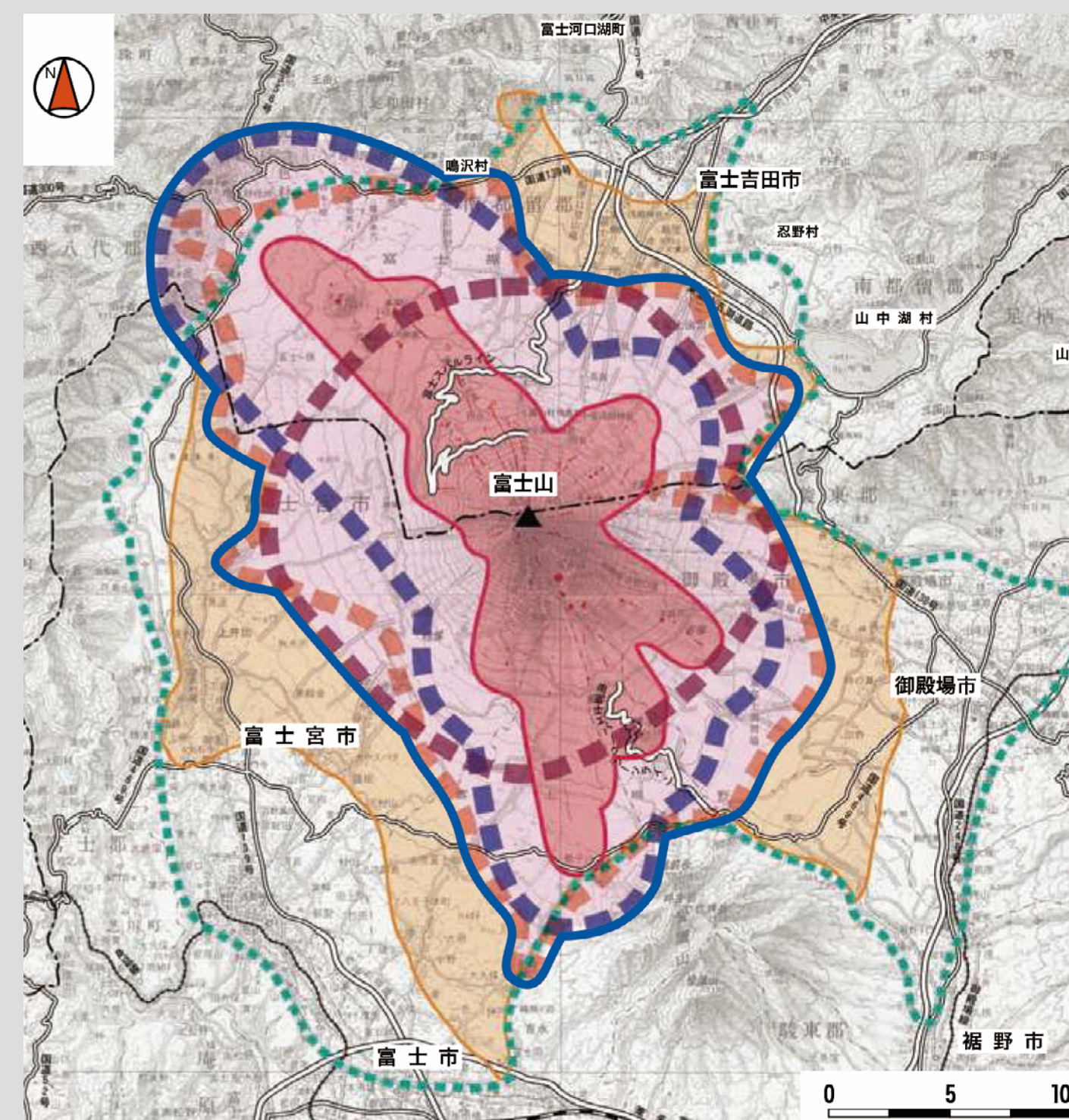
- 火口ができる可能性の高い範囲
- 噴火しそうな時、噴火が始まった時すぐに避難が必要な範囲(火砕流、噴石、溶岩流の影響が及ぶ可能性の高い範囲を重ねたものです)
- 火砕流の流下範囲
- 噴石の到達範囲
- 溶岩流(3時間以内に山頂から流下する範囲)  
※積雪時には融雪型火山泥流の到達範囲も対象になります
- 溶岩流が24時間以内に到達する範囲

#### 【噴火警戒レベルと必要な防災対応】

- 噴火する前の段階
- レベル5(避難)及びレベル4(避難準備)  
○●○の3つの範囲での避難準備及び要援護者避難等
- レベル3(入山規制)  
○の範囲での活動自粛等
- レベル2(火口立入規制)  
限定的な危険地域の立入規制等
- レベル1(活火山であることに留意)  
特になし

■噴火開始後の段階  
状況に応じて対象範囲を判断することになります

・この図は、富士山火山防災マップ(富士山火山防災協議会、平成16年6月)に基づいています。  
・富士山の噴火警戒レベルは地元自治体と協議して作成しました。各レベルにおける具体的な規制範囲等は地域防災計画等で定められておりますので詳細については富士山周辺の下記自治体\*にお問い合わせください。  
\*静岡県、富士市、御殿場市、裾野市、富士宮市、小山町、山梨県、富士吉田市、富士河口湖町、西桂町、山中湖村、忍野村、鳴沢村、身延町、神奈川県



富士山の火山活動について:今から約300年前に宝永の大噴火の後、現在まで静かな状況が続いていますが、地下深くでは地震活動が見られ今でも火山活動が続いています。